

養鶏夜話 一第4話一

種鶏場のイボ

県養鶏農協参事 福田種鶏場専務取締役 小野 登志男

お勤めは？と聞かれたとき。鶏に関係のない人に電話を掛けるとき。シュケイジョウでございますといつても、一度で判って頂けることはありません。字で種鶏場と書けば、ああ鶏飼いのタグイかどうにか判ってもらえます。反対に、ヨウケイジョウといえば、別に養鶏場と書かなくても、大体通用するようです。だからタクシーへ乗ったときでも、福田種鶏場と行先をいうと、必ずといっていいほど聞き返されますので、本社への場合は「福田の養鶏場」ということにしています。酔っ払って帰るときは、小宅のある浦安研究所を「浦安の養鶏場」と申します。一度車の中で眠ってしまって浦安の交番へ連れこまれ、この人は誰でしょうとやられて恥をかきましたので、浦安だけでなく必ず浦安の養鶏場と乗るとき申します。

昔からアホウのトリ飼いとけなされ、養鶏はあまり賢い人がやる仕事ではないようです。しかしまた、鶏頭となるとも牛尾になるなかれとも申しますから、いわばチッポケなお山の大将がガヤガヤとやっているのが養鶏であり、種鶏場であるといえましょう。では、種鶏場の番頭である私の存在は、一体何といったらよいのでしょうか。

周知の通り鶏頭には、トサカと呼ばれる冠がついています。通常飼われている鶏の冠は、単冠と称せられる1枚だけの冠のものが多いのですが、肉用種では、3枚冠やクルミ冠のように複雑な形をしている冠をもっている鶏もよく使われています。そのほか、冠にはバラ冠とか毛冠とか種々な形のものがある

りますが、経済鶏にはあまり見かけられません。

遺伝的に申しますと、単冠が劣性で3枚冠やバラ冠が優性ですから、単冠の鶏と3枚冠の鶏を交配するとその子は3枚冠になります。それとは違いますが、単冠を表わしているのは劣性ホモなわけですが、現在の経済鶏が固定される過程には種々な冠を持った鶏と交雑の歴史を重ねて来たはずですから、単冠でも先祖の複雑な冠がちょいちょい顔をのぞかせることがあります。単冠の後尾の部分が魚の尾のようにさけているもの、冠の所々にポッチリと大小のイボ（疣）のような凸起が出ているもの等がそれです。前者を魚尾冠と呼び、後者を側枝（ソクシ）といっています。

この種鶏場が鶏頭の冠とすれば、それにくっついている側枝すなわちイボが番頭であり私の存在でありましょう。側枝も、魚尾冠のように派手にひらひらしていると、このごろでは断冠されてしまいます。冠の根本から切り落とし、焼ごてをあてられるのです。ご覧になったことはありませんか。

イボは悲しからずや。